

多くの事実を知ることが出来る。済生学舎のことは申すに及ばず、その後身である私立日本医学専門学校や東京医学専門学校誕生までの過程や、それにかかわった非常に多くの人物の行動が手にとるように書かれている。それだけでなく済生学舎でどのような人物が何を教科書にして教えていたかも知ることが出来る。

目次をひろつてみる。

第一章 長谷川 泰の生い立ち

第二章 大学東校時代の長谷川 泰

第三章 創立時の済生学舎

第四章 済生学舎の発展史

第五章 済生学舎時代の野口英世

第六章 済生学舎の女子医学教育及びその周辺

第七章 済生学舎廃校の歴史(前篇)

第八章 済生学舎廃校の歴史(後篇)

第九章 済生学舎廃校後の各種講習会及び私立東京医学

校・私立日本医学校

第十章 長谷川 泰及び済生学舎年表

第十一章 資料集

全篇の中でところどころ出てくる「官尊民卑」という言葉への思い入れと、軍医不足となった時などの行政の身勝手さが、医療政策上の考証でもう少し明確となれば、さらにすばらしいお仕事になると思う。

明治の医人も非常に遠くなつたと感じているので、みずか

ら「本郷の乞食」と称し、「本郷鎮台」とアダ名された長谷川泰の奇癖にもふれてほしかったし、済生学舎における教師の優劣さをきそわせるような講義の組合せカリキュラム(生徒は好きな教師の講義を選んで聞けた)にも先駆性を感じるのでふれてほしかった。

唐沢先生の今後の研究がさらに発展されることを祈り筆を擱く。

(中西 淳朗)

〔日本医事新報社・東京都千代田区神田駿河台二一九、電話〇三一三二九二一―五五二、一九九六年十一月、A五判、二二四頁、二、〇六〇円〕

山県郡医師会編

『広島県山県郡医師会史上・下』

本書は下巻の資料編が平成五年四月三十日に刊行され、上巻が同八年九月三十日に遅れて発行されて、本論篇となっている。それは通史編と各論編に分かれたれ、付編として医人伝と現医師会員による一人一稿となり、医事年表がつけられている。本書刊行後、広島県医師会はその速報で、上巻は一六〇号(平成八年十二月二十五日)の渡辺晋により、下巻は一四七九号(平成五年八月五日)に江川義雄により書評が紹介されているところである。

本書は広島県における一郡医師会の記録とはなっているも

の、その内容は資料価値の充実した項目で充たされている。十余年の歳月をかけ、膨大な予算を注ぎ、その監修指導は元広島県誌編纂委員で現岡山商科大学教授の土井作治氏があたった。編纂委員長末田尚は精根を傾けて、本書の早期刊行を目指したが下巻上梓を目前にして逝去したのは、痛恨の極みであった。その後任委員長・進藤岱三もまた心筋梗塞の重症発作を克服し、上・下二巻の完本として刊行した苦しくも貴い難産の記録でもある。

記述内容は、委員達が日本医史学に於いて總會や関西支部会、津山洋学研究会、広島県支部会などで刮目すべき発表したものを含めて収められている。大項目について述べると医史以外の地域環境と生活を産業や人文調査から筆を起し、地域医療、医家に伝わる日記・文庫、資料が具体的に記載され、疫病、飢餓の記事など一般史家にとっても郷土資料的に貴重な研究がある。草深い僻地において、曲直瀬道三に関する雲陣夜話に関するものから、本草学に関するもの、この地より出た蘭学者日高涼台とその関係記事や近世末期の日本文化史を彩る慶応義塾の初代塾長・古川正雄、英国流医学の恩人であり、大阪府立医学校長の吉田顕三など、多くの先人伝も新しい資料が加えられて興味深い。

現代に近くなると、医療機関の変遷、医師調査表分析、原爆関係、救急医療活動があり、全員で書こう医師会史は一人一頁で、将来、郡史料作成の周到な用意も配慮されている。

編集担当の進藤は、本書に記載洩れの内容や感慨を平成八

年十一月二十三日の広島支部総会で発表されたので、この誌面にあわせて紹介させて貰うことにする。

地区の計画では、郡医師会創立百周年記念と芸備医学会創立メンバーの一人である本郡出身者・尼子四郎の顕彰碑建立事業があり、その主要事業として、十余年の歳月を注ぎ込み郡内の旧医家、郡外の関係医家とその文書類調査を徹底的に行なった。県下の郷土史編纂事業の中でも、本郡での関係図書は名著と評せられるものが数多く刊行されており、それだけに新資料の発見が待たれたものであった。

その成果は幾多の先覚者、小田怡仙、児玉涼庵、日高涼台、尼子四郎などをはじめとして未紹介の内容もあり、医師定住性の高い当地域における医学・医療の歴史、伝統がよく理解され、興味深いものがある。学会発表で話題となった「山県草木志」、「及彼」などはその一例である。及彼研究にはオランダ語の解説にポイケル教授と交見する程の情熱をもち、曲直瀬玄朔訳「医学正伝」研究では広島市立中央図書館に度々出張し、館員・学芸員並の馴染みがある程であったり、慶長十八年の三册之弁脉論など古医書、記録類は二千点にも達した。それらの資料整理は藤波虎生嘱託が当った。特に収集品の中で未紹介のものの中には陋室日記と回生録の診療録があり、文化・文政・嘉永の年間のものである、と。

種痘関係では、広島島の三宅春令と並び有名である児玉涼庵・児玉有成の事業があるのであるが、それらの資料は先年灰燼に帰したという。明治初年に種痘術免許をめぐる文

書がみられることは有難い。

手紙類の中には、英国留学時代の吉田顕三から児玉有成あてなどのものも見られる。

このように上下二巻の膨大な図書刊行は、全国的にみても珍らしく、内容は既発行の他の医師会史の編集構想をこえて、貴重な医史料を掲載している。

本稿草稿中に教示をえたライデン大学のボイケル夫人の急逝が石田純郎君より入った。本書刊行に関係し、物故された方々の諸霊にも謹んで報告するものである。

(江川 義雄)

(山県郡医師会・広島県山県郡芸北町移原六八三一 美和診療所内、電話〇八二六一三八一〇〇二一、上卷一九九六年九月、下卷一九九三年四月、A5判、布上製、上卷七三二頁、下卷七三四頁、上一組一五、〇〇〇円)